

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第2節 ロアッソ熊本戦

9/11(日) 19:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

.....どこまで“沈めば”気が済むのかな？

岐阜 1-3岡山【第4節】

ホームでの岡山戦、1対3で敗れた。負けたことのない相手「岡山」に...！先制点を取られたから...？何故、菅をDFで起用するの？MF起用にしてよ。秋田を先発で起用して！木村監督。後半から、新井と佐藤を下げるな。どうせなら、野田（明）と西川を交代させたほうが、よかったのでは...？その反面、ハンジェ&ブルーノは、いい動きでした。帰路、息子（新井ファン）と怒りトークばかりでした。次回のロアッソ熊本戦こそ、勝ち点3を取得してください。（s223）

仕事でしばらく都合が合わず先日久々に試合を見た。勝敗や内容については省略。感じたことは「客数と同時に客質が落ちた」サッカー観戦者にとって当たり前な行為「スタジアムを汚さない、出したゴミは必ず自分たちで処分する」すらできないのが客数の割に多い。飲食物やゴミが座席近くにそのままにしてある、ルール上持ち込めない物がある、社会常識では考えられないものがゴミ箱にある等等などキリが無い。選手やフロントがプロの興行として成立させていない事は既に明白。それより“サッカーファン”が見たい興行になっていないことが情けない。当時“岐阜にJリーグを！”という声に助力してきた人が離れている。この状況を一体どうする？（ヘルハース）

なんとというか、今季はできる限りハードルを下げて、少しでもイイところがあったらそれで溜飲を下げて.....などと思っているんだけど、岡山戦のソレは「雨が降らなくてよかった」かな？（苦笑）。ま、それは冗談として。同点に追いついた場面は、明弘の縦パスが正吾に通った時点で「キターッ！」という感じがして、クロスを入れた時には「もらった！」と思ったものだが、まさかあんな形になるとは想像できず.....。とにかく、初ゴール、おめでとう！>ブルーノ

とはいえ、それ以外には特筆すべきものはなく、終始鳥取戦を下回るパフォーマンスの連続で、もう何を言ったらいいのかわからないレベル。ことに、前半は野垣内がシュートを撃つまで形すら作れず、「頼むから、サッカーしてくれ.....」という印象。（あくまで主観です）。後半開始時に仰天の2枚替えがあって、さすがに「不動の木村さん」も我慢できなかったかと思いつつ、それでもやむなしというか当然の交替だよな。そして、それは実を結んだかのように見えたのだけど.....。あのオウンゴールを責めるつもりはない。ただ、そこにつながった場面は、岡山のなんでもないハイボールを、こともあろうに秀人と明弘が競り合ったところを拾われ、サイドチェンジからの長身FWへのクロス。自陣のそんなに難しくもない位置で、どうしてあんなことが起こるのか？いや、ま、それを防ぐことができるのなら、リーグでダントツの29失点とかはしませんか。攻撃も交替によって多少の活性化は見られたものの不完全燃焼のままタイム・アップ。橋本、押谷、そして染矢がいっぺんに抜けては、いたしかたがないことなのか。いかに、彼らが今の岐阜にとって欠かすことのできない選手かがよくわかった。優大の「各駅停車で、それが3分遅れ」とは実に言えて妙であり、彼のセンスが伺える（解説者になれるんじゃないのか？）のだが、そもそもこの岡山戦に向けて、どのように臨むつもりだったのか？スタメン3人が不在がわかっていての一週間。岡山をどうスカウティングして、どういう戦術を取るのか？そういった思索や研究のあとがこれっぽちも見受けられない試合だったように思う。ボールを持った選手はもちろん、フリーの選手も戸惑いながらやっているように見えた。いったい、どんな練習をしてきたんだろう？最下位を脱出するために、少しでも上位に行くためには前節の鳥取戦同様負けてはいけない相手。試合の結果には運もあるだろう。だけど、あの内容では何と言って自分自身を慰めればいいのか？拳句に試合後のコメントで「普段の練習から真剣にやらなければ.....」などと言われたら、「今までは真剣じゃなかったの？」とツッコミたくなってしまうよね？もちろん、掲載されるコメントは前後の脈絡もわからず、口調や表情もわからないし、聞き手の主観もあるから鵜呑みにするつもりもないけれど、少なくともボク自身の耐性がかなりヤバくなってきているのは間違いない（笑）。ブービー、つまりひとつ上の鳥取は一桁9位との勝ち点差が残り15試合で10で、その鳥取と岐阜との勝ち点差は11。鳥取の半分しかないわけだ。シーズンも2/3を過ぎてのこの状態。今季の目標の達成は難しいだろうが、それでも練習から真剣に取り組んでもらって、少しでもいい結果を出せるように。せめて初心にかえって、90分走り続けるひたむきなサッカーを見せてもらえないかな？（ぐん、）

続きます。

today's guest

ロアッソ熊本

2010 J2 7位
J2通算対戦成績 : 3勝 3分 3敗

2011成績
第08節 11/04/23 熊本 2-1岐阜

2010成績
第08節 10/03/27 熊本 1-0岐阜

第2節 10/08/08 岐阜 1-熊本

2011J2 順位表 第4節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から視点）

1	FC東京	42p	+18	32	14	A	H
2	栃木	42p	+12	31	19	H	
3	徳島	41p	+11	33	22	H	
4	千葉	40p	+9	34	25	A	H
5	札幌	40p	+8	26	18	H	A
6	鳥栖	39p	+15	33	18	A	
7	北九州	36p	-1	24	25		
8	東京V	33p	+15	44	28	H	A
9	草津	32p	-7	27	34		
10	大分	31p	-1	26	28	H	
11	愛媛	31p	-3	28	31	A	
12	横浜FC	30p	+1	25	24	A	
13	熊本	30p	-9	20	29	A	
14	湘南	29p	-5	22	27	H	
15	岡山	29p	-7	28	35	H	
16	京都	27p	-2	25	27	H	
17	富山	24p	-12	18	30	A	
18	水戸	23p	-8	24	32	H	A
19	鳥取	22p	-5	25	30	A	H
20	岐阜	11p	-26	16	45	---	---

次回 HomeGame

第2節
愛媛 FC戦

9/24(土) 16:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集！

gidaidohr@hotmail.co.jp

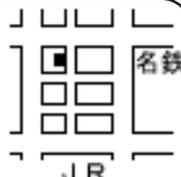
FC岐阜大好き通信（岐大通）
9/11号
編集発行：『岐大通』製作委員会
今号の製作担当：ささたく&吉田醸造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願ひ致します。

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休：日曜日（今日はお休みです）



ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

(岡山戦の続きです)

目を覆いたくなるような試合内容だった。「これは酷い」と感じた前節・鳥取戦よりも、更に酷い試合だった。前節の「絶対に勝たなければならない試合」だった、ホーム3連戦の初戦・鳥取戦を、ほぼ自滅の状況で逆転されて落とし、迎えた次の試合。確かに、相手は前節・18位の鳥取と比べれば上位(?)16位の岡山だし、染矢はケガから復帰しておらず、押谷を退場で、橋本を警告累積で、前節スタメンの2人を欠き、確かに厳しい状況ではある。それでも、前節のリベンジに選手たちは燃えているはずだ(と僕は思っていた)し、キックオフ前には洗一と優大と正吾が長いこと話し合っていたので、今日こそは...と強い気持ちで僕は勝利を信じていた。

ところが、だ。試合開始直後には岐阜の選手たちも動きが良く、流れを掴みかけていたと思うのだが...前半8分、1本のスルーパスを、岐阜DFラインの裏を抜け出した岡山MF妹尾に簡単に通されてGK恭平と1対1になってしまい、これを防ごうと飛び出した恭平は軽くかわされ、先制点を許してしまう。すると、(今季は見慣れた光景で非常に残念なのだが)選手たちは急に自信を失ったかのように、動きが悪くなってしまった。失点の悪いイメージを引きずってしまったのか、ボールを奪って攻撃に転じようとしても、DFラインの押し上げが足りないで中盤がスカスカになり、ことごとくセカンドボールを拾われるようになってしまう。また、いわゆる「無駄走り」が足りないためにサポートの動きも少なく、ボールを持った選手が孤立して囲まれてしまったり、あるいはボールを後ろで「回させられて」しまい、その隙を狙ってボールを奪われ、何度か危険な場面を迎える。サポートできていないのは、攻撃にも守備にもチームの「意思統一」が図られていないためなのだろうが、他人任せになっている動きも多かった。結局、前半のシュートは4本。しかも30分まで0本で、棒に入っただのは、力なくGK正面に飛んだ1本のみという始末。

「これはマズイな。このままズルズルいいたら...」と思っていたら、やはりベンチでも相当の危機感を持ったのだろう。後半開始から、洗一からブルーノ、新井からハンジェへの2枚替えをしてきた。その交替は今日の選手たちの動きや調子を考えれば十分に納得できたものの、正直ビックリした。そして、その采配は(少し時間がかかったけれども)的中し、徐々に岐阜の動きが良くなってきて、64分、正吾が右サイドを突破してクロスを上げ、ゴール前の混戦にブルーノが押し込んで同点ゴール!この試合で初めて正吾がサイド突破した攻撃だったし、チームとしても、この試合で初めて相手の守備を崩した攻撃だった。

ここで、同点のリズムに乗って更に逆転...といけば良かったのだが、またしても守備のミスが。7分に、右サイドを崩されて左サイドに振られ、クロスを上げられて、ほぼフリーの状況で岡山FWチアゴのヘッド。これが秀人の体に当たってオウンゴールとなり、勝ち越し点を決められてしまう。ここで印象的だったのは...録画が無いので記憶違いかもしれないが...急いでボールをセンターサークルに運び、倒れ込んでしまった野垣内を無理矢理引き起こして、周囲の選手を鼓舞し続けるハンジェだった。

しかし、せっかく引き寄せた流れを取り戻すことは、残念ながらできなかった。84分にはゴール前の混戦から再びヘッドで岡山MF澤口に押し込まれ、1-3。万事休す。こうして、(今節・熊本戦を残しているが)ホーム3連戦を連敗し、勝ち点を全く奪えなかった。しかも先日負けた19位・鳥取の勝ち点は22と、岐阜とは11点もの差がついてしまった。ダントツの最下位。

試合終了後、挨拶に来た選手・コーチたちには、容赦ないブーイングと怒号が浴びせられた。そりゃまあ、台風で開催が危ぶまれた試合に駆けつけ、強風の中で屋台村のスタジアムグルメリも楽しめず、それで鳥取戦に引き続いてホームで不甲斐ない負け方をすれば、怒りたくなるのも充分にわかる。僕だって『この1週間、なに練習してたんだ!』って吼えたいのを、必死で我慢してたから(苦笑)。挨拶に来た選手たちは、何というか...覇気のない表情をしていた。何をどうすれば勝てるようになるのか、完全に分からなくなっているような表情だった。逆に言えば、練習での「明確な戦術」「効果的な練習」が(そりゃ実践する

のは難しいかもしれないけれど)監督・コーチ陣から示されていないのではないかと。もっと、選手も監督もコーチも、ちゃんと意見を出し合ってぶつけ合って、必死に練習して、勝つための努力をしてほしいし、それを試合で見せて欲しい。残念ながら常勝チームではないから負けることだってあるのは僕だって分かってる。だけど、勝つために最後まで諦めずに戦うことが感動を生むのだし、そういう努力なくして、勝利の歓喜はやってこないのではないだろうか。それと、一度ピッチの外から試合を見せることは、選手が迷ってしまったり、あるいはリーグの過密日程で疲労を回復させるのに、有効な手段だと僕は思うのだが...どうして今年のチームは在籍しているあらゆる選手を起用しようとしなかったり、あるいは組み合わせを変えてみようと思わないのだろうか?何度も繰り返して主張していると思うが、これだけ負け続けているのに、(それが成功するかは別の問題として)対策をしている姿がチームに見えてこないから、サポーターの不満も溜まってしまっているのは当然だと思う。あるいは、現在ベンチ外に置かれている選手は、試合をピッチの外(スタジアムのベンチ)から客観的に見れているはずなのだから、その意見をチームに反映させたり、あるいは自分自身が問題意識を持って必死に練習に取り組み、スタメンを奪うほどの気概を持って欲しいと思う。そういった競争でチームを活性化させないで、この暗く長いトンネルは抜けられないのではないだろうか。気を取り直して、今節はホーム3連戦の最終戦、「J昇格同期」の熊本戦だ。状況を考えれば厳しい戦いになると思うが、選手たちが、鳥取戦・岡山戦での敗戦の悔しさを勝利への執念に変えて、最後までひたむきに走りきって戦い、そして勝利することを信じている。(ささたく)

【ユース】前期リーグ戦終了。

我らがFC岐阜ユースU-18(以下岐阜ユース)は9月4日に前期リーグ戦の最終節、加茂農林高校との対戦がありました。試合は観戦に行けませんでした。県協会のサイトによると13対0の大差で勝利したようです!(パチパチパチパチ)これで前期リーグ戦は5戦全勝で文句抜き1位通過。うれしいね~。県協会様、早く後期リーグ戦の日程・組合せの発表、宜しくお願いします(ペコリ)。岐阜ユースの選手達へ。前期リーグ戦勝ち抜けおめでとう。これからの後期リーグ戦とJユースカップの健闘を祈ります。決して驕る事無く、一戦必勝をお願いします。応援してるよ!!FORZA!FC岐阜ユースU-18!!(シュナ)

【セカンド】祝!天皇杯初戦突破

先日の4日に悪天候の中行われました天皇杯一回戦、4度目の挑戦にてFC岐阜SECOND(以下2ND)がようやく勝利を収めました。2NDがメモリアルで公式戦をするのはこれが初めて。前半は序盤にちょっとしたズレから失点するも、慌てることなく主導権を握り、途中得たPKを細野自らが決め同点。後半に“県代表決定戦でPKを2回も外した(笑)”遠藤が落ち着いて流し込み逆転。その後退場者を出すも堅い守りに相手にシュートを打たすことなく勝利。笛が鳴った瞬間、私は嬉し泣きしていました。相手は静岡勢、天候が良ければ分からない試合だったかも知れません。今回2NDはチームの連動性や選手の距離感、基礎技術の重要さを見せてくれた試合だったと思います。次は10月8日(予定)にJ1の清水と対戦します。普通に考えればレベルの差は歴然。ある言葉を借りれば「ありえないなんてことはありえない」という気持ちで向かっていって欲しいものです。(ち~な)



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>